

■松崎万長 建築家。ドイツスタイルの建築を得意とし、破産して爵位を返上後、台湾で活躍。

まつがさきつむなが

五ヶ国条約・1858＝ 京都二階町で、孝明天皇の侍従長堤哲長の次男に生まれる。幼名は延鷹。甘露寺勝長の養子となる。

桜田門外変・1860＝ 2歳：

遣欧使節・・・1861＝ 3歳：弟(亀井茲明)が誕生。

孝明天皇の稚児だったため、

薩長同盟・・・1866＝ 8歳：孝明天皇の死去、

大政奉還・・・1867＝ 9歳：その遺詔により堂上公卿に列した(孝明天皇の子だったという噂もある)。同年、松崎姓を称し、

明治維新・・・1868＝10歳：

戊辰戦争終・・・1869＝11歳：30石3人扶持を賜った。

廃藩置県・・・1871＝13歳：岩倉使節団に加わって、ドイツ(プロイセン)に渡り、

明治6年政変 1873＝15歳：

三つの反乱・1876＝18歳：

明治14年政変1881＝23歳：

岩倉具視没・1883＝25歳：以降2年、ヘルマン＝エンデのもと、ベルリン工科大学で建築学を学んで、

秩父事件・・・1884＝26歳：帰国。男爵を賜り、

内閣発足・・・1885＝27歳：皇居造営事務局御用掛、

帝国大学始・・・1886＝28歳：*内閣臨時建築局工事部長として官庁集中計画に携わり、留学の経験を生かして、ドイツから建築家のエンデとヴィルヘルム＝ベックマンを招聘するとともに、職人たちのドイツ留学を手助けした。辰野金吾・河合浩蔵・妻木頼黄とともに造家学会(のちの日本建築学会)の創立委員となり、設立に貢献。造家学会創立委員会は、松崎邸で開催された。

初の対等条約1888＝30歳：*「旧青木家那須別邸(国の重要文化財)」。青木周蔵の別荘で日本国内に現存する唯一の作品である。

帝国憲法発布1889＝31歳：

郡司千島探検1893＝35歳：裁判所から資産分散の宣告を受け、

日清戦争始・1894＝36歳：

白馬会・・・1896＝38歳：爵位を返上した。経済的な理由と考えられる。

田中正造直訴1901＝43歳：仙台に転居し、

日比谷公園・1903＝45歳：仙台の「七十七銀行本店」の設計などにもあたった後、

日露戦争終・・・1905＝47歳：

韓国反日暴動1907＝49歳：日本を離れて、*台湾総督府鉄道局に勤務、

アラクイ創刊・1908＝50歳：「台北西門市場」、

明治天皇没・1912＝54歳：「基隆駅」、

大正政変・・・1913＝55歳：「新竹駅」、

ロシア革命・1917＝59歳：「台湾総督府交通局鉄道部」、

本格政党内閣1918＝60歳：「台中公会堂」などの建築にあたって、

原敬首相暗殺1921＝63歳：東京府で、没した。